

# 劃期的道路政策

内務書記官 丹 羽 七 郎

産業道路助成の豫算が第五十六帝<sup>ノ</sup>議會で成立した。吾等の宿願は始めて達せられたのである。現代社會の要求は實に多岐多端であるが都市と農村とを問はず資本家たると勞働者たると地主たると小作人たると將た又生産者たると消費者たるとに拘はらず全社會人の翹望するものは道路の改良である。道路熱夫は頗る熾烈であり全社會層に亘つて存するのであるけれども之を支援する特定の利害關係團がない。固より地方問題としての特定道路に關する限り地方的利害關係團があるが全國的道路改良の根本問題は彼等にとつては對岸の火災である。唯少數の經世的識見を有する者のみが全社會に滲透してゐる此熱望を具體化して政策を確立することが出来る産業上の見地より全國幹線道路の改良を策する場合殊に此の感を深うするのである。

羅馬帝國は古代の道路國であつた。佛蘭西獨逸に於ける今日の幹線には羅馬道路の遺物が少くない。佛蘭西は近世の道路國である。其の國道網の如きは今日も尙模範的のものである此等の國家に於ける道路は主として軍事上の目的に依りて完成された。此兩國が古代と近世との帝國主義

の代表國家であるところからも其の然る所以は觀取される。此等の道路は軍事上の目的を有するものであるから中央政府自身の計畫に依つて實現された。何れの國家に於ても此關係は同種である我國に於ける道路史を見るも中央政府の關心する限り其の第一に軍事上の目的であり其の第二は行政上の目的であつた。當時にあつては産業と道路との關係する問題は單に小地方問題であつたのである。然るに今日は全國幹線を自動車交通に適する構造と爲すことが國家的産業政策の完璧を期する上に於て不可缺のものとなつた。英米獨佛伊の諸強國に於ける道路政策は皆此理由に於て國費を以て道路改良を助成してゐる。我國に於ける國家の道路改良助成は道路法の制定に依りて其の基礎を築き大正八年原敬氏を繞圍する爲政治家に依りて所謂二億八千萬圓計畫として樹立されたのである。其の計畫は國道の改良を主とし之に加ふるに六大都市の街路改良及軍事上の必要ある府縣道の改良であつた當時道路改良を促進した實際上の動機の一は東京市内の泥濘道路が都市交通上首都の體面上捨てをき難しと感ぜられたことに存する。此理由を擴張して六大都市の街路改良を國家が助成することとなつたのであるが、一般の改良に至つては産業問題としての道路改良は國家之を解決すべしとの原則は尙未だ一般人士には稍縁遠い考であつたので國道及軍事府縣道の改良といふ形式即ち行政及軍事を一主眼とする従前の政策の様式が踏襲されたのである。然るに最近數年間道路交通の顯著なる發達は産業問題として之を解決せねばならなくなつた。

新らしき酒を舊き韃に盛ることは出来ないから道路政策改訂の必要が起つた。内務省の路政當局が産業政策として全國の國道及府縣道より成る重要幹線を自動車交通に適せしむる爲府縣に補

助するの政策を創始せんとして計畫を樹てたのは大正十四年初春であつた。爾來毎年必要なる豫算を要求し來つたのである。大正十五年府縣道二萬數千里中より幹線六千里を選び國道と共に中央政府の特別の監督に服せしめたのも其準備であつた。昭和二年の暮の帝國議會には愈々産業道路助成費が提案されたのであつたが不幸議會解散の爲不成立となり、前議會に於て其豫算は始めて成立したのであるからいよく本年度を以て吾等の多年唱導した産業道路改良か其緒につく次第である。

明治維新後爲政者は其經綸を廢藩後の國內に施す爲には道路の必要を痛感したことであらう。明治九年道路の制を定めて其基本を制定し道路の規格を定めたが其の抱負は余り多く實現を見なかつた。大正時代には道路法の制定道路改良計畫の樹立に依りて眞に近代的道路行政の領域に踏みこんだのであつた、昭和新政の下に於ける産業道路改良計畫は右の明治大正の政策と同じく劃時代的なる路政の進展である。大正八年の道路改良計畫は近代的道路の必要が始めて識者の間に認められ天下の憂に先じて憂ふる人人の樹立したものである、産業道路計畫は道路改良熱が山村僻地にも普ねく及んだ時に民衆と憂を共にする人人の樹立したものと云へよう。余は徒來屢々産業道路に付て説明を試みたのであるから今日道路改良會が産業道路豫算の成立を祝する爲産業道路號を發行する機會に更めて説明を繰返すことを避け諸先輩の驥尾に付して欣快の意を述ぶるに止める。